

令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

面城中学校区 校番 20 学校名 呉市立港町小学校

a 学校教育目標	① 心豊かに 自立する	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) 集団の中で確かな学力を身に付けさせ社会性を育成する <ビジョン>(将来の学校像) 「学ぶなら、通わせるなら、働くなら、港町小学校で」と思える学校を目指す
----------	-------------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	本校では、中学校区の「三川教育プラン」に則り、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いて取り組んできました。その結果、基礎学力や思考力・判断力・表現力について、設定した目標は達成できた。しかし、学年によっては達成できておらず課題が残った。また、「自分で考え、自分から行動する」主体的な児童の育成により、自己肯定感を育む取組を行い、目標を大きく上回ることができた。 今年度も引き続き教育活動全般で主体性を育むことを基盤とし、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成に重点を置き、方策の工夫改善を重ねて取り組む。
------------------------------	---

育成を目指す資質・能力	○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体性
-------------	--------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・ 3 年目)	自己評価
--------------------------------------	------

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
						*** 確かな学力の向上	① 主体的な学びの推進による学力の定着と向上	基礎・基本の徹底 思考力・判断力・表現力の向上	・発表の仕方など学習のきまりを設定し、学習規律を身に付けさせ、聞く力を育てる。 ・児童のつまづきをもとに内容を工夫するなど、スキルタイムの充実を図り、基礎・基本の力を身に付けさせる。 ・自己との対話や他者との対話を通して、自分の考えを表現する力を育てる。 ・算数科において、TT指導による児童の実態に合わせた個別指導を工夫することで、思考力を養う。	国語科・算数科市販テスト「知識・技能」平均点 国語科・算数科市販テスト「思考力・判断力・表現力」平均点	85%
** 豊かな心の育成	① 自他を大切に共に高め合う児童の育成	自他のよさに気付き、相手を思いやる態度の育成 主体的に行動し、協同できる児童の育成	・異学年活動を充実させることで、自信をもって行動し、他者を思いやる態度を育てる。 ・学級で良いところを見つける「ほめほめ葉っぱ」などの活動を行い、友達の良いところに気付くことができるようにする。 ・学校行事や異学年活動に取り組む中で、自己の役割を明確にし、めあてをしっかりとさせて取り組ませる。	「学校に行くのは楽しいですか。」 児童アンケート 「めあてに向かって行動することができましたか。」 児童アンケート 「友達と協力して頑張ることができましたか。」 児童アンケート	85%						
* 健やかな体の育成	① 社会で生き抜くための体力と生活習慣の向上	① 体力の向上 生活リズムの確立 ① 「自分の命は自分で守る」防災教育の深化	・外遊びを推奨したり、体育科授業の単元計画を工夫したりすることで、楽しみながら苦手な運動の強化を図ることができるようにする。 ・体育科の授業において、ボール運動を中心に、「巧緻性・投球能力」を高める。 ・規則正しい生活習慣を身に付けるために、学期に1回生活リズムばっちり週間を実施し、保護者に啓発する。 ・呉市防災教育のための手引きを参考に、各学級年に1回防災に関する授業を実施する。 ・災害ごとの避難訓練における発達段階に応じた、事前事後指導を徹底する。 ・土砂災害携帯マニュアルを活用した家庭と連携した防災教育の充実を図る。	「運動やスポーツをすることは好きですか。」 児童アンケート 早寝・早起き・朝ご飯・排便の項目 自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合 災害時(大雨)に避難する場所や避難の仕方について理解している児童 児童アンケート	80%						
業務改善	・教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保 長時間勤務の削減	・主任の業務を分担し、児童と向き合う時間を確保する。 ・「会議の精選」「児童への配付プリント電子化」など効果があった取組を継続する。	児童と向き合う時間を確保されていると感じている教職員の割合 在校時間外勤務が45時間未満の教職員の割合	80%						
					100%						

【k: 評価】
 A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60